

授業科目名: 野球	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名: 伊藤栄治・高柿 健 担当形態: クラス分け・単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)			
授業のテーマ及び到達目標			
(1)野球(捕る、投げる、打つ、走る)の基礎技術をICTなどを用いて習得する。 (2)野球で主体的で対話的な深い学びを習得する。 (3)野球の動きを分解して、つまづきからの手立てを習得する。			
授業の概要			
<p>「捕る、投げる、打つ、走る」ことを行う野球は、ベースボール型球技と言われ、中学校、高等学校の体育授業でも行われている。しかし、野球未経験者は、「捕る、投げる、打つ、走る」こと全てが得意だとは言えず、発育発達段階や運動経験、様々な特性によって「捕る、投げる、打つ、走る」ことの個人差も決して小さいとは言えない。そのため、野球の楽しさを十分に感じることは簡単ではない。</p> <p>本授業では、「捕る、投げる、打つ、走る」という行為の基本動作や応用技術を身に付けさせるとともに、何がうまくできないか、どうすればうまくいくかを、ICTやグループディスカッションを実施することによって、学生個人あるいはグループで「気づき、理解する」ことを促す。合わせて、これらが主体的で対話的な深い学びにつながり、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなライフスタイルを実現する」ことを理解させる。</p>			
授業計画			
第1回:野球における「捕る、投げる、打つ、走る」とは 第2回:「捕る」基本技術(1)ゴロの捕球 第3回:「捕る」基本技術(2)フライの捕球 第4回:「捕る」基本技術(3)捕球フォーム改善点の確認(ICTの活用、グループディスカッションの実施) 第5回:「投げる」基本技術(1)コントロール(軸の回転と重心移動) 第6回:「投げる」基本技術(2)投げるフォーム改善点の確認(ICTの活用、グループディスカッションの実施) 第7回:「捕る」、「投げる」の応用技術(1)捕ってから投げる 第8回:「捕る」、「投げる」の応用技術(2)捕ってから投げるフォームの改善点の確認(ICTの活用、グループディスカッションの実施) 第9回:「打つ」基本技術(1)構えからスイング(テイクバック、インパクト、フォロースルー) 第10回:「打つ」基本技術(2)高低、内・外角への対応 第11回:「打つ」基本技術(3)打つフォームの改善点の確認(ICTの活用、グループディスカッションの実施) 第12回:「走る」基本技術(塁間の走り方) 第13回:野球のルール、ポジション、審判法の理解および実践 第14回:ゲームメイクの理解(グループディスカッションの実施) 第15回:基本技術の評価(実技試験) 実技試験			
スクーリングでの学修			
打つ・捕る・投げるの基本動作を修得しベースボール型の魅力を体験する。			
テキスト			
野球の教科書 野球指導書編集委員会 9784887189683			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価			
スクーリング評価(20%)、科目修得試験(80%)			